

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400668		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム・栄田	ユニット名	1階
所在地	長崎県諫早市栄田町42-58		
自己評価作成日	平成30年11月13日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年11月29日	評価確定日	平成30年12月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりのできること、得意なことを職員で情報共有して日頃の暮らしに取り入れて支援している。体調や健康面においても職員は些細な変化にも気づくことができ、早期対応に努め、入居者が安心して生活できるよう支援している。  
ケアカルテの導入があり、今までよりもさらに職員間、多職種との情報共有が円滑になっている。今までの記録時間が短縮し、入居者と関わる時間が増えつつあり、重度化や看取りへの体制づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム栄田”では、管理者とリーダー、職員が結束し、「住み慣れた住まいで、その人らしい暮らしを継続できるよう支援します」という理念の実践に努めている。日々の生活では洗濯物たたみなどを一緒にされており、入居者の方々が好まれる飲物(ジュース、甘酒、ココア、紅茶等)を準備している。入居者の体調や精神面に応じた声かけや介助が行われ、医療連携も密に行われている。ホームの道路向かいに開園した保育園との交流も増えており、ハロウインの時に園児からお菓子を頂き、入居者と一緒にお礼を兼ねて保育園訪問をしたり、クリスマス会では園児が踊りや歌を披露して下さっている。ご本人の自宅近くの夏祭りに職員と外出し、馴染みの方と会話をされたり、スーパーで買物をされる方もおられる。今後も以前のように入居者の役割(食事の下ごしらえや食器洗いなど)を増やす方法を検討すると共に、家族や地域の方も一緒に楽しい時間を過ごしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方が住み慣れたなじみの場所での生活が継続できるように支援している。	「住み慣れた住まいで、その人らしい暮らしを継続できるよう支援します」という理念を大切にされている。入居者の心身状況に応じて、入居者のお好きな事をして頂き、日々の役割を担って頂いている。	グループホームは「地域密着型サービス」であり、今後も「地域の中で」「地域の一員として」等の視点が、理念のどの部分に込められているのかを職員同士で再確認していく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等を通して、近隣の方や保育園と交流の機会を持つようにしている。	ホームの道路向かいに開園した「こころ保育園」との交流が増え、入居者も楽しみにされている。高校生(福祉科)もホームに来て下さり、学生との会話を楽しまれたり、入居者が編み物を教えてあげている。町内の夏祭りに参加し、焼きそばを食べたり、くじ引きを楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での活動報告の中で入居者の方への支援について報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題としてホームでの取り組みについてや活動報告を行い、委員の方々より意見をいただいている。	前回の外部評価以降、会議の議題(感染症と対策、身体拘束等)を決めて情報交換している。外部評価の報告も行い、ホームの取り組みや役割を理解して頂いている。夜勤者の会議(研修)の参加等のアドバイスを頂いたり、地域の現状や課題も教えて下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	さわやか介護相談員の活動や運営推進会議を通して市の職員の方に報告することができ、協力関係ができるよう努めた。	管理者(相談員)が市役所に行き、入退居の報告や更新手続き等を行ったり、保護課の担当者に金銭管理に関する必要な書類のアドバイスも頂いた。市の職員から運営推進会議で、地域の認知症の方の相談もあり、意見交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で話し合いや声かけを行い、身体拘束防止に努めている。	職員会議で「身体拘束の手引き」の13項目をチェックし、振り返りを行うと共に、運営推進会議で日々の取り組みを報告している。「帰りたい」と言われる方の行動背景を分析し、家族に連絡したり、寄り添いや散歩、お手伝いをして頂いたり、編み物等のお好きな事をして頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でお互いに声をかけあい、注意を払い、対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会の機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書の説明を行い、不明な点がないか確認しながら進め、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	廊下にご意見箱を設置している。日頃から話がしやすい雰囲気づくりを心がけ、ご家族の方には普段の様子をお伝えし、意見等いただいている。	面会時や電話で暮らしぶりや健康状態を報告し、要望を伺っている。日々の生活の中で、「(亡くなられた)ご主人にご飯をあげたい」「歩行器があれば安心」等のご本人の要望を伺い、日々の生活に取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員は意見交換をする機会がある。また、スタッフ会議の時は職員が自由に意見を出すことができ、随時話し合いをしながら反映させるようにしている。	管理者が職員(夜勤専門職員も含めて)の思い等を聞いており、施設長と管理者との3者面談で目標確認も行われている。職員の助け合いもあり、業務のアイデアも多く、意見を伝えやすい環境が作られている。今後も全ての職員が研修に参加できる環境を作る予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や状況をみて、必要な研修を受けることができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加してもらい、意見交換を通して学ぶ機会はあるが、相互訪問などの活動はまだできていない。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時や面接時より話を聞き、状況を把握する。ケアマネ等からも情報をいただくようにしている。コミュニケーションを図りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や面接時に状況確認を行い、入居されてからも話をしながらご家族との関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向を把握した上で、その時に必要な支援を行うように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方ができることを一緒に行い、職員に教えてもらうような活動になるよう心がけている。一緒にすることが難しい方もその場に参加してもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも面会時や電話連絡等で本人の状況を伝え、一緒に支援していけるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族から生活歴や大事にされてきた場所など話をしながら把握し、支援に努めている。	地域の夏祭りなどで知人と再会されたり、納涼会に家族や知人が来て下さり、一緒に団欒されている。ご本人が書かれた手紙を郵便局で投函したり、自宅への外出も行われ、家族と美容室やお墓参りに行かれる方もおられる。今後もセンター方式を活用し、生活歴を増やす予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション(体操やおやつ作り等)の際、入居者同士一緒に活動できるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は本人やご家族の方と関わる機会が殆どない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴の時間を増やしたり、面会時に一緒に話を する時間をつくったりして本人の意向の把握に努 めている。	日々の会話の中で要望を伺い、家族には面会 時に伺っている。意思疎通が困難な方の気持 ちに寄り添い、表情や声かけの反応等から思 いを把握するように努めており、家族にも確認 している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	コミュニケーションを図ったり、入居時にも らった情報を確認しながら生活歴等の把握 に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	以前の記録を元にできていること、難しく なったことを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的開催し、主治医や ご家族などの意見を取り入れながら介護計 画を作成している。	アセスメント用紙の改良が行われ、生活歴を増やし、 ご本人のできる事の情報把握に努めてこられ た。ご本人と家族の要望を伺うと共に、ご本人の 心身状況に応じた声かけの工夫も続けており、計 画には散歩や買い物、体操、歌、洗濯物たたみ等 も盛り込まれている。	今後も行動障害の背景を分析し、ご本 人の思いや要望を記録していく予定であ る。ご本人のできる事とできそうな事、留 意点、趣味等をアセスメント用紙や計画に残 すと共に、家族との話し合いを増やして いく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテ「ちょうじゅ」を導入し、職員間の 情報共有が非常に円滑となった。情報がワ ンタッチで閲覧可能であり、その情報を介護 計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や入浴など基本的な時間は決まってい るが個人のニーズや状態に合わせて柔軟 に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の知り合いが集まるお祭りに出かけ、コミュニケーションを図り、その人が生活を営んできた生活が今も継続している感覚をもっていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を受診してもらい、その都度状態報告を行っている。	馴染みの医師に受診されている。28年7月から同じ建物内に訪問看護(サテライト)ができ、随時相談できている。医師の往診もあり、必要に応じてクリニックの看護師が点滴にいられている。通院は主に家族(又は職員)が介助し、認知症専門医の受診も行われている。	家族対応で受診される事が多く、今後も医師から直接、ホームの職員が治療や療養上の留意点などを聞いていきたいと考えている。人員配置等を含め、職員が同席できる勤務体制の検討をしていく予定である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の気づき、気になる様子があれば事業所の看護師や訪問看護師に報告し、助言や指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、定期的に看護師、ソーシャルワーカーに状態を確認し、情報交換を行い、早期退院できるよう支援している。退院時も情報交換し、入院前と変わらない生活ができるよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態をみながら、状態に合わせてご家族や主治医、訪問看護師、職員でカンファレンスを行った。本人やご家族の意向に沿うよう支援に努めた。	希望があれば看取りケアを行う方針であり、医師からも「何かあったら電話して下さい」と言っている。職員全員で誠心誠意のケアが行われ、体調変化に応じて、ご本人の意向を確認し、主治医や家族、看護師と話し合いを続けている。終末期まで褥瘡を作らず、医師からお褒めの言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備し、防災教育を行っている。定期的な訓練ができていないが普通救命講習が開催される時は参加するようにしている。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災計画の中で火災、災害について訓練の計画をたて実施している。火災想定での訓練では消防団員の方にも参加してもらう機会を設けている。 台所はIHクッキングヒーターを使用している。	28年に近隣施設(ケアホーム栄田、椿寿荘)と協定を結び、30年4月は防災計画とマニュアルの再確認が行われた。毎年3月の消防署や消防団との訓練(夜間想定)では、入居者に布団で休んで頂く場面から訓練がスタートしており、今後も避難確認後の居室の目印を検討予定である。台風を想定した情報伝達、招集、災害要援護避難支援訓練も実施しており、備蓄も3日分あり、母体法人との協力体制もできている。	
----	------	---	---	--	--

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉づかいに配慮し、個人を尊重しながらも親しみやすい会話や対応を心がけている。	入居者の方と目線を合わせ、その方に応じた声かけや言葉遣いに配慮している。希望に応じて同性介助が行われ、排泄時等の羞恥心も配慮している。入職時に個人情報保護の署名をしており、今後も個人情報管理の勉強会をしていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方によっては自己決定が難しい方もいるができる限り本人の思い、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人を尊重してなるべく促すような言葉を控え、落ち着いて生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方は職員がその方に合った整容をしている。自立の方は自分で着たい服など選んでもらっている。その方にあった身だしなみになるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食となったが食事については意向を伝えたり、意見交換をして提供している。また入居者一人ひとりに合った量、形態で提供し、楽しみながら食事ができるよう支援している。	平成30年2月から配食サービスを利用している。味噌汁や和え物などの一部は半調理の状態が届き、職員が仕上げ調理をしている。昼食は職員も一緒に食事を行い、会話を楽しまれている。入居者もテーブル拭きや味付け等のアドバイス、おやつ作りを楽しまれている。	配食や食器乾燥機の利用が増え、職員と一緒に食事の準備をする機会(役割)が減っている。今後も以前のように入居者の役割を増やす検討を続けると共に、季節の草花を飾るなどの雰囲気作りも行う予定である。

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はきちんとカロリーが計算されている。入居者の好まれる飲物(ジュース、甘酒、ココア、紅茶等)を準備して、入居者の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの状態、パターンを把握してトイレ誘導をするなど、その方に合った支援に努めている。	ご本人の意思を大切にしながら、トイレ誘導をされている。排泄が自立している方もおられ、昼間はできるだけ布の下着を使用している。薬の内容に応じて昼夜の尿量が違う事を把握し、パッドの必要性や種類を検討しており、頻尿の方は医師に相談し、アドバイスを頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物(ミルミル、ココア、ヨーグルト、バナナ等)の提供や歩行運動、体操等を行い、それぞれに合った対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面に配慮し、時間帯はきめているが入居者一人ひとりに合った入浴ができるよう支援し、楽しめるよう心がけている。	シャワーチェアを購入し、立位が困難な方の洗身等に活用している。湯船で職員との会話(昔話)も弾まれており、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。体格に応じて2人介助を行い、拒否が見られる場合は無理じいせず、家族の面会時に誘導等の協力をして頂く方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりにあつた環境を整え、夜間なかなか眠れない方に対しては廊下の歩行運動をするなど活動を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の症状が見られる時は主治医に相談したり、訪問看護師やご家族に連絡、受診をして早めの対応に努めている。		



48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや壁飾り作りの手伝いなど1人ひとりのできることを取り入れて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望がある時はご家族の方に協力いただき支援することができた。また、ホームの周りを散歩して外に出る機会を作るよう心がけた。	天候の良い日は外で日光浴をしている。ホーム前の保育園の季節の飾りつけを楽しまれたり、子ども達と挨拶をされている。ホーム周辺を散歩したり、車いす利用の方も一緒に、諫早公園の桜の花見や真崎川の鯉のぼりを見物している。お祭りに行かれたり、スーパーで買物をされる方もおられる。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者はお金を所持していないが希望に応じて対応している。普段所持されていない方も外出時には所持していただき使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由としていて、本人だけでは難しい状況で、必要時は手伝って支援するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルは車いすも安全に通れる広さを考慮して配置している。また、季節感が出るような飾り付けを行っている。	ユニット毎にリビングのレイアウトが異なる。リビング横の和室をフローリングに改装し、雨の日などは洗濯物を干されている。マッサージチェアもあり、足を挙上して過ごされたり、窓際で日向ぼっこをされている。外からの自然光や風(換気)を取り入れ、季節の飾りつけを行い、加湿器で湿度調整をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係を把握しながら席替えも行き、思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたものやご家族の写真、作品を飾ったり、居室がわかるように名前が記載されたものを掲示してわかりやすくなるよう工夫している。	畳とフローリングの居室があり、机や収納スペースもある。居室のモップ掛けをされる方もおられ、家族も整理整頓をして下さる。居室に洗濯物干しを置き、ご自分で干されたり、ご主人の遺影にお仏飯を供える方もおられ、居室でラジオを聞かれたり、花鉢に水やりをされている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内に手すりが設置されているので歩く事ができる方が安全に移動できるなど、1人ひとりができることを安全に行うことができるように支援している。		
----	--	--	--	--	--